

中国の辺境を訪ね歩いて “一燈照隅”から見える情景

岡豊樹

1.「中国通」って何？

社会人生活の大半を中国の金融市場に身を置き、中国の人民元の国際化や自由化の流れとともに歩んできた身にはやや唐突感を覚える質問であった。1990年代に中国留学手続きのために初めて中国大使館に足を踏み入れ、その後赴任した上海では、国際金融市場を目指す対外開放政策に、世界の金融機関が「初」案件(ファーストディール獲得競争)にしのごを削っていた時代である。銀行では拠点網拡大、人民元のオン、オフショア取扱、更には証券ビジネスへの参入へと、金融国際化と自由化のダイナミックな流れに忙殺され、気が付けば、20年以上の歳月が流れた。中国全土を東奔西走、沿海部の大都市には頻繁に訪れるが、中国の地方都市や大自然といった風景とは全く無縁であった。冒頭の質問に話を戻そう。ある

大手国有企業総経理曰く、「中国通であれば経済や金融、歴史は当然、文化や観光にも造詣が深くあるはずで、当然ながら中国が誇る風光明媚な“九寨溝、チベット、大理・麗江”あたりはもう訪れているよね？」



標高3000m級を走破する青藏鉄道(青海省-西蔵)



パノラマ風景・ワグナー草原(内モン古自治区)



ミャンマーとの国境60周年(雲南省)



地層博物館・天山大峡谷
(新疆维吾尔自治区)



白沙山河の絶景(新疆维吾尔自治区)

2. 驚きのデジタルテクノロジー (携程旅行) (注1)

中国大陸での勤務も終盤を迎えたころに、デジタルテクノロジーが進化し、驚くべきサービスに出会う。中でも定制游(customized private trip service)サイトは極めてスピーディかつプロフェッショナル。日本人は時間と言語対応からほとんど足を踏み入れないであろう辺境地を訪ね、「中国の一隅を照らす」ことができればと思い始めた。

最高指導者・鄧小平の南巡講話の年、実はもうひとつの対外開放政策となる辺境開放政策^(註2)が進められたことを意識した外国人は殆どいない。別表に、中国が隣接する14か国の国境のごく一部を、照らし浮かび上がる情景の概要と自分なりの感想を掲げている。辺境地それぞれに共通することは、土地毎に少数民族

が遅しく生活し、伝統行事や崇拝する宗教を大切にしている。また国境ボーダーにおいては、民族紛争や国境対立、資源外交といったこれまでの歴史と現在に思いを馳せることができた。短期間であるが旅を通じて温かな現地の人とのふれあい、露天や軒先に並ぶご当地グルメの数々、そしてなにもものにも代えがたい大自然が優しくもてなしてくれるのである。

2019年度訪日中国人数約985万人と過去最高、一方、訪中日本人数約250万人とピーク時の400万人には程遠い。沿海部に目が行きがちな日本からは見えない中国の情景であろう。「百聞不如一見」の大自然、そして息づく民族文化、辺境地での交流といった素晴らしさを日本に伝えたい。「一燈照隅」(一隅を照らす小さな灯から初めて)という輪を広げていければと願う。

3.訪れた辺境地の概要

①距離・時間、①テーマ、②見どころと感想(註3)

1)青海省(西寧)～西藏自治区(チベット・ラサ):ネパール国境

①距離4200km、6.5時間、青蔵鉄道で標高5000m級へ、①「入蔵許可証を携えて、世界の屋根へ」、②鉄道走行約2000kmうち960kmは標高3500m以上。最高地点は唐古拉(5092m)、冠雪を抱く6000m級の昆侖山脈(玉珠峰、玉盧峰)は圧巻。野生動物のカモシカ、ヤク、ロバが戯れる姿に見惚れるが高山病には要注意。

2)雲南省(騰冲～瑞麗):ミャンマー国境

①距離3100km、4時間、①「雲南省とアセアンの繋がり」、②国境は一寨両国。1960年の中緬(ミャンマー)国交樹立から60周年、鉱物資源・翡翠、大温泉開発地区、「騰越・怒江の戦い」等悲しい歴史も。激しい貧富の格差。

3)新疆ウイグル自治区(カシュガル～カラクリ湖へ):中央アジア・タジキスタン国境

①距離5100km、8.5時間、①「シルクロードを辿る～烏魯木齊(ウルムチ)からクチャ、アクス、カシュガルへ、辺境許可証必携」、②ウイグル族対策から厳重な辺境検査、4世紀頃の亀茲国繁栄の歴史、冠雪を抱くタジキスタン・パミール高原(天山山脈・白沙山河)には絶句。手抓飯と烤羊肉がご馳走の夜市バザール、お金では買えない人生の豊かさを感じる瞬間。

4)内蒙古自治区(海拉爾～滿州里):ロシア国境

①距離3100km、5.5時間、①「ロシア風情、中ロ関係の今」、②360度パノラマ大草原・額爾古納(ワグナー)草原、中国最北端都市「漠河」(北緯53度、白夜とオーロラで有名)まであとわずか。

(註1) Ctrip。中国で人気のオンライン旅行サイト

(註2) 1992年に公表された政策。国境総延長2万キロを越える国境に隣接する14か国、13都市を対外開放、広い意味での地域経済統合や国際分業を進めることが目的とされた

(註3) 距離: kmは上海浦東空港からの距離。時間: 乗り継ぎを含めた上海浦東空港から最寄りの空港までのフライト所要時間、①は旅のテーマ(自作)



岡 豊樹

日中投資促進機構・事務局長、みずほ銀行理事(現在)

1993年に北京留学後、上海、北京、香港に7回勤務、
2015年4月、みずほ銀行執行役員・中国現法行長(頭取) 董事長(会長)を経て、
2019年8月に帰国、合計21年の中国駐在生活。上海白玉蘭賞受賞、
中国永久居留証取得、中国人民大学・南開大学・大連外国語大学客員教授
ダボス会議、ボーア会議等講演多数、論文(対外経済貿易大学、社会科学院等)
大分県出身